

阪神大震災当日を振り返って

株式会社上組港運事業本部
ポートアイランド第2営業所
小 柳 博

平成7年1月17日、午前5時46分、地震によって起床。今、当日のことを振り返って見ますと、まず、大きな揺れで花瓶が私の枕元に落下し、その瞬間私は女房に覆いかぶさって「地震や大丈夫か」と声を掛けたことを思い出します。揺れが収まると同時に起床し、子供たちの安全を確認するやいなや、電話のベルが鳴りました。それは早出出勤していた会社の者からでした。彼曰く「地震によって倉庫が傾いてガタガタです。すぐに出勤して来てください。」との事でした。

私は、須磨区の高倉台に住んでいますが、倉庫が壊れるほどの地震とは思えず、半信半疑ながら食事せず自動車に飛び出しました。

須磨高倉台を過ぎ離宮道を通り、部下の言った言葉が納得できました。それは両サイドの民家が数多く倒壊し、東方向からは火災と思われる黒煙が上がっていました。車で会社まで行けるか不安になりましたが、なんとか午前7時過ぎに神戸大橋に到着すると、橋は通行止めになっていましたのでやむを得ず、中央区浜辺通4丁目の本社に車を置き、歩いて神戸大橋を渡ることになりました。

ポートアイランドに入ると、道路は液状化現象により泥水で一杯でした。しかたなくズボンの裾を巻いて泥水の中を歩き、やっとのことで勤務先であるポートアイランド化学品埠頭に到着しました。

到着してすぐにヤード内を見て回り、その悲惨さに愕然としました。岸壁はエプロン部分を残し、その手前から広範囲に渡って1m～2m程陥没し、又、ヤード及び岸壁周辺に置いてあった空コンテナが数多く倒壊し、その上、ヤード内は液状化現象によって50cm位土砂が盛り上がっていました。私はすぐに事務所に入りポラロイドカメラとフィルムを持ってヤード内の現状を撮影した後、倉庫の中に蔵置してあった危険品貨物が気になりましたから、扉を開けて撮影しようとしたのですが、土砂で扉が開かないのであきらめて、取りあえずフィルムを持って本社に帰る決心を致しました。

その帰り道、これからの我々の職場はどうなるのか、倒壊したコンテナは、倉庫の中の危険品ドラムは、陥没した岸壁は、色々な事を思い、考えながら本社に戻った事を思い出します。

本社に到着してすぐ上司に撮影したフィルムを渡し現状を報告した後、朝から食事をしていない事を思い出し、同僚と三宮に何でもよいから、とにかく口に入れる物を買いに走りましたが、商売をしている店など全くなき、あらためて震災の大きさと悲惨さを痛感させられました。この時期になるとすでに至る所で通行止め及び渋滞がひどく我家に辿り着いたのは午後11時30分ごろでした。朝6時過ぎに家を出て、帰宅するまでに口にしたのは飲料水とタバコだけでした。

この日一日の経験は私にとって生涯忘れられない日となるでしょう。